

九十九里町立統合小学校校舎建設・九十九里中学校校舎改築工事設計業務委託 基本設計報告書

1. 計画概要

©

1－	1. 基本計画の概要	01
1－	2. 計画敷地概要	03
1－	3. ハザードマップ	05
1－	4. 鳥瞰パース(完成イメージ)	07
1－	5. 模型写真	08
1－	6. 建物計画概要	10

2. 建築計画

A

2－	1. 配置計画	01
2－	2. 平面計画	02
2－	3. 立面断面計画	03
2－	4. 内装仕上計画	04
2－	5. 普通教室計画	05
2－	6. 給食室計画	07
2－	7. 省エネルギー・環境計画	08
2－	8. 防災計画	09
2－	9. 外構計画概要	10
2－10.	屋外体育施設計画	11
2－11.	配置計画比較検討	12

1－1．基本計画の概要①  
(九十九里町教育委員会「九十九里町学校再編計画 令和6年4月」より抜粋)

1. 町がめざす学校教育

九十九里町では、町の将来像として「人、自然、風土を力に未来に広がる海浜文化都市 九十九里」と掲げた「第5次九十九里町総合計画」の実現に向けて各種施策を実施している。

教育分野では、子どもたちの基礎的な学力の向上はもとより、自ら学び、考え、行動することができるよう「生きる力を育む」、また、人や自然に対する思いやり、郷土を愛する心を養うため小中学校における教育環境の充実に学校・家庭・地域と連携し取り組んでいる。

2. 小学校再編の方針

1 再編方針

片貝小学校・豊海小学校・九十九里小学校を1校に統合する

統合にあたり、小学校3校をいずれも閉校し、「統合小学校」を新設し開校。  
また、それぞれの学校の伝統や特色を尊重しながら新しい学校づくりを進める。

2 統合時期

令和12年4月を統合時期とする

想定以上に人口減少が進んでおり、少子化に拍車がかかっている中、複式学級の発生が心配される時期、また中学校校舎の改築も含めた校舎建設期間を考慮し、令和12年4月を統合時期とする。

3 統合場所

九十九里中学校敷地内に統合小学校を開設する

現在の小学校3校が、津波及び洪水浸水想定区域内に位置していることから、区域外になる九十九里中学校敷地内に開設することで安全性を確保する。  
また、小中学校を一カ所に集約し、中学校間の連携体制を強化し、教育環境の充実を図る。

4 学校施設

統合小学校校舎を新たに建設する

統合小学校校舎の建設に併せて、2052年（令和34年）に改築時期を迎える九十九里中学校校舎も含めた施設整備を行う。屋内運動場は、既設九十九里中学校屋内運動場を小中学校で共同利用とする。

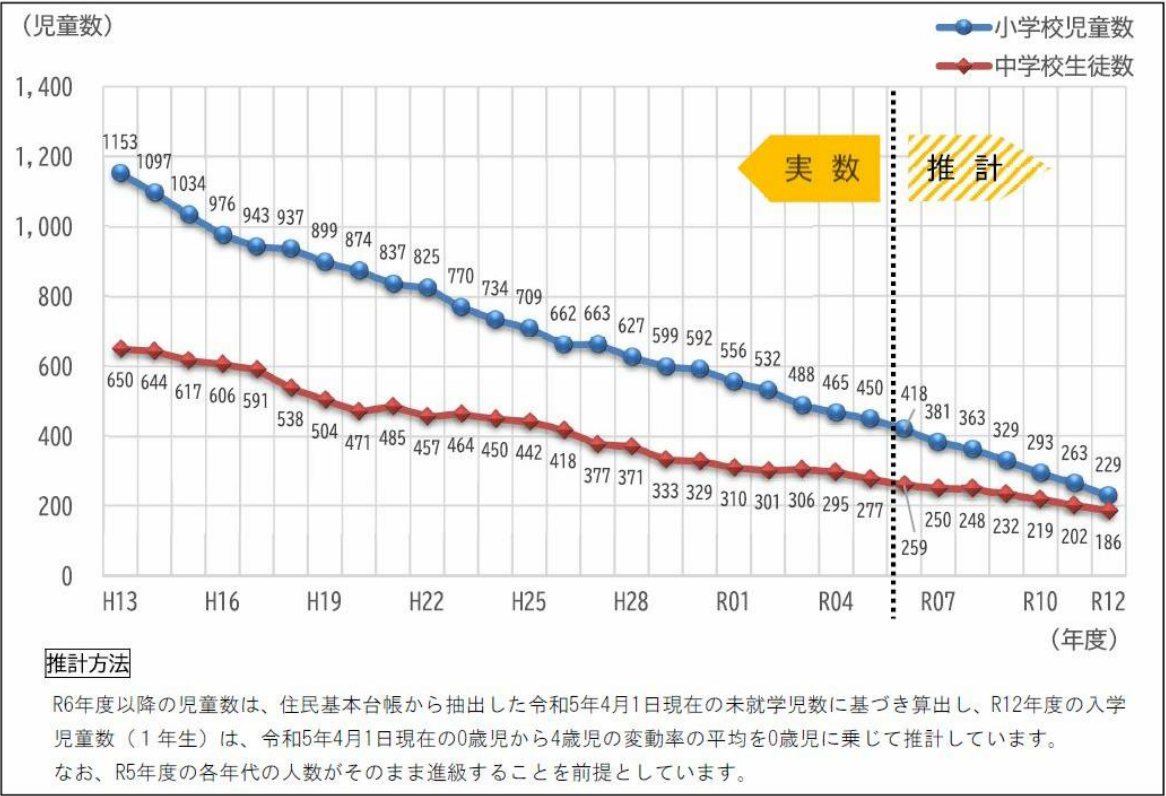
3. 施設整備の条件

- (1) 統合小学校校舎の建設に併せて、九十九里中学校校舎も含めた施設整備を計画。
- (2) 小学校及び中学校の校舎は、連携教育の構築性、児童・生徒の安全性及び将来的な小中一貫教育制度への移行など様々な観点を考慮し、同一棟での建設を計画。
- (3) 屋内運動場及びグラウンドは、既設中学校施設を可能な限り利用する。
- (4) 小学校と中学校で共用できる諸室は、可能な限り共用とする。
- (5) 外構については、スクールバス運行に必要なバスロータリー及び停留所を整備。また、駐車場は可能な限り広いスペースを確保する。

4. 学校の概要

(1) 児童・生徒数の推移と推計

小学校児童数については、平成13年度に1,153人だったが、10年後の平成23年度には770人に、その10年後の令和3年度には488人まで減少した。減少傾向は今後も続くことが予想され、令和12年度の児童数は229人になることが見込まれる。



(2) 学校施設の状況

九十九里町の学校施設として校舎及び屋内運動場の約80%が、建築から30年以上を経過している。建物の耐震化は施されているものの全体的に老朽化・機能低下が進んでいる。

施設名	建物名	延床面積	構造	階数	建築年
片貝小学校	校舎	3,534㎡	RC造	2階	1978年
	屋内運動場	1,133㎡	RC造	2階	1987年
豊海小学校	校舎	4,156㎡	RC造	2階	2006年
	屋内運動場	1,651㎡	RC造	2階	1991年
九十九里小学校	校舎(普通教室棟)	2,957㎡	RC造	2階	1990年
	校舎(特別教室棟)	1,634㎡	RC造	2階	1991年
	屋内運動場	1,697㎡	RC造	2階	1997年
九十九里中学校	校舎	6,854㎡	RC造	2階	1972年
	屋内運動場	2,344㎡	RC造	2階	1973年

1－1．基本計画の概要②  
(九十九里町教育委員会「九十九里町学校再編計画 令和6年4月」より抜粋)

1．施設整備のコンセプト

新しい学校の施設整備にあたり、子どもたちにとってより良い教育環境とするため、以下の5項目を施設整備のコンセプトとする。

(1) 快適で居心地の良い学校

学校は、児童・生徒の学びの場であるとともに、一日の大半を過ごす生活の場でもあります。良好な学習環境と快適な生活環境を確保し、学校に行きたいと思える居心地の良い魅力ある学校施設づくりを目指す。

(2) 学びの変化に柔軟な対応ができる学校

児童・生徒の習熟度に応じた学習や少人数指導、また学習教育のICT化に対応するだけでなく、将来的に多様化する学び方に柔軟に対応できる学校施設づくりを目指す。

(3) 災害に強く安全・安心な学校

学校は、教育施設としてだけでなく、災害時には町の防災拠点としての役割も担っております。児童・生徒だけでなく地域住民にとっても安全・安心な施設として、防災機能の充実を図り、災害に強い学校施設づくりを目指す。

(4) 小・中学校同敷地を生かした学校

小学校及び中学校が同敷地であることを活かし、小中学校間の連携教育や交流を有効に実施できる学校施設づくりを目指す。

(5) 長く使い続けられる学校

継続した施設保全が可能となるよう維持管理が容易な構造・施設規模とし、長期的な使用ができる学校施設づくりを目指す。

2．施設整備の考え方

(1) 工事計画

- ・工事期間中は、基本的には仮設校舎を利用しないこととし、生徒は既設中学校校舎を利用しながらの居ながら工事とする。
- ・建設工事に際し、既設のプール、部室及び倉庫は、先行して全部を解体とする。
- ・工事期間中は、生徒の教育活動場所を維持するため、屋内運動場及びグラウンドを利用できるようにしつつ、生徒の安全を最大限確保することに努める。

(2) 配置計画

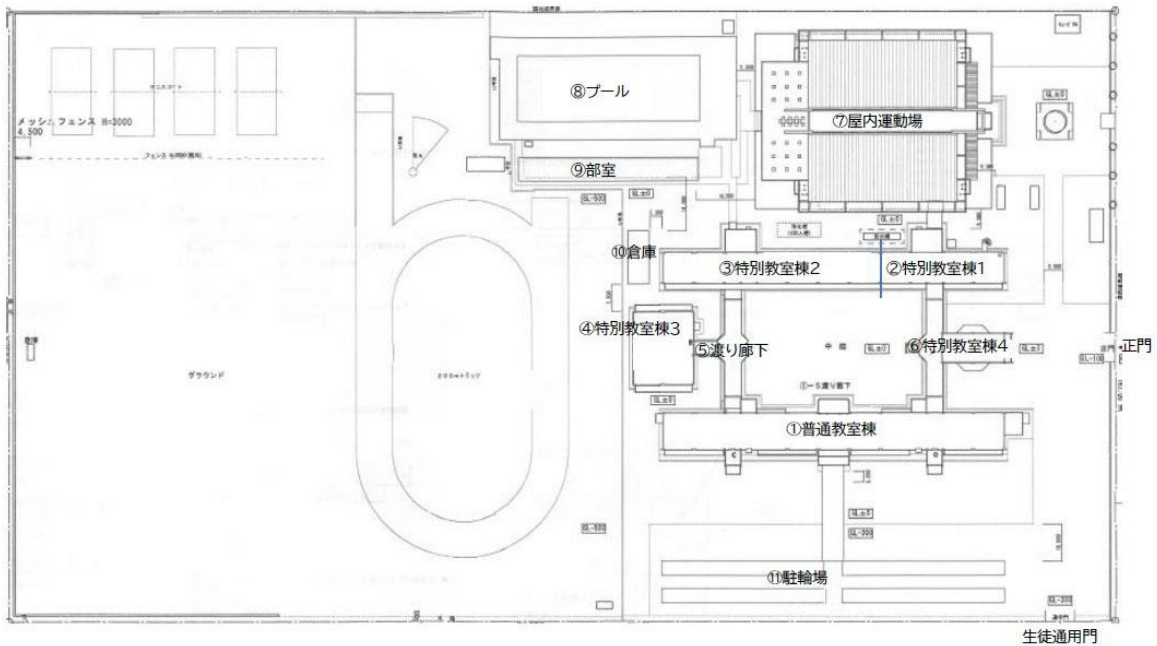
- ・新校舎は、グラウンドや門等の敷地全体に目が届きやすいような配置とする。
- ・新校舎は、既設の屋内運動場及びグラウンド、また新設するバス停留場や駐輪場にアクセスしやすい配置とする。
- ・児童・生徒の通学方法は、徒歩・自転車・スクールバス・保護者送迎が考えられ、門の位置や通路については、動線を明確に整備し安全を確保するものとする。
- ・敷地周辺の住宅や農地への日影・騒音・視線等に十分配慮した配置とする。

(3) 平面計画

- ・小学校と中学校の生活圏が分かれるように、移動動線を工夫するとともに、共用する諸室等を介して、小中学校の交流・連携が図りやすい配置とする。
- ・特別教室は、普通教室からのアクセスに配慮した配置とする。
- ・校長室及び職員室等の管理諸室は、グラウンドや門扉等の敷地全体に目が届きやすい配置とする。
- ・給食室及び配膳室については、給食を衛生的に小中学校の各教室へ配膳できるような配置とする。

3．既設中学校施設の概要

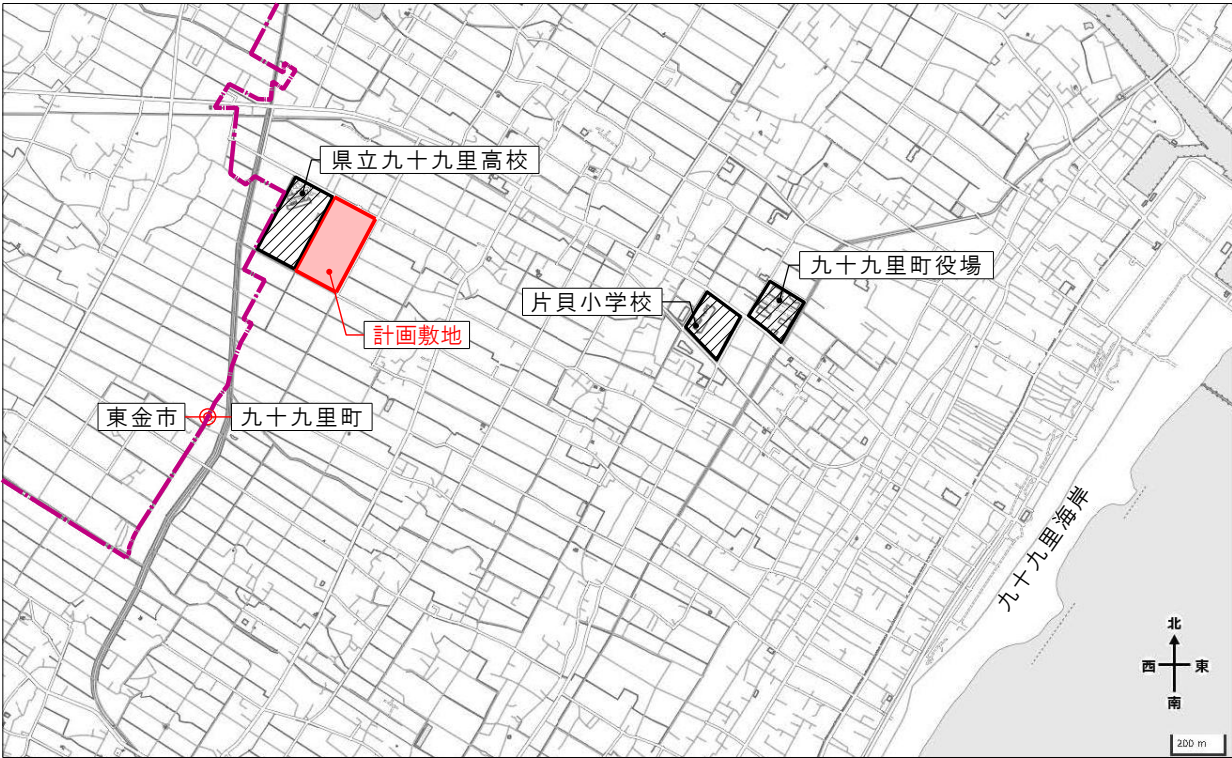
No.	建物名	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	階数
①	普通教室棟	3,111	鉄筋コンクリート	3
②	特別教室棟1	792	鉄筋コンクリート	3
③	特別教室棟2	1,840	鉄筋コンクリート	3
④	特別教室棟3	343	鉄筋コンクリート	1
⑤	渡り廊下	171	鉄筋コンクリート	2
⑥	特別教室棟4	597	鉄筋コンクリート	3
⑦	屋内運動場	2,344	鉄筋コンクリート	2
⑧	プール	-	-	-
⑨	部室	238	鉄骨	1
⑩	倉庫	50	木	1
⑪	駐輪場	-	-	-



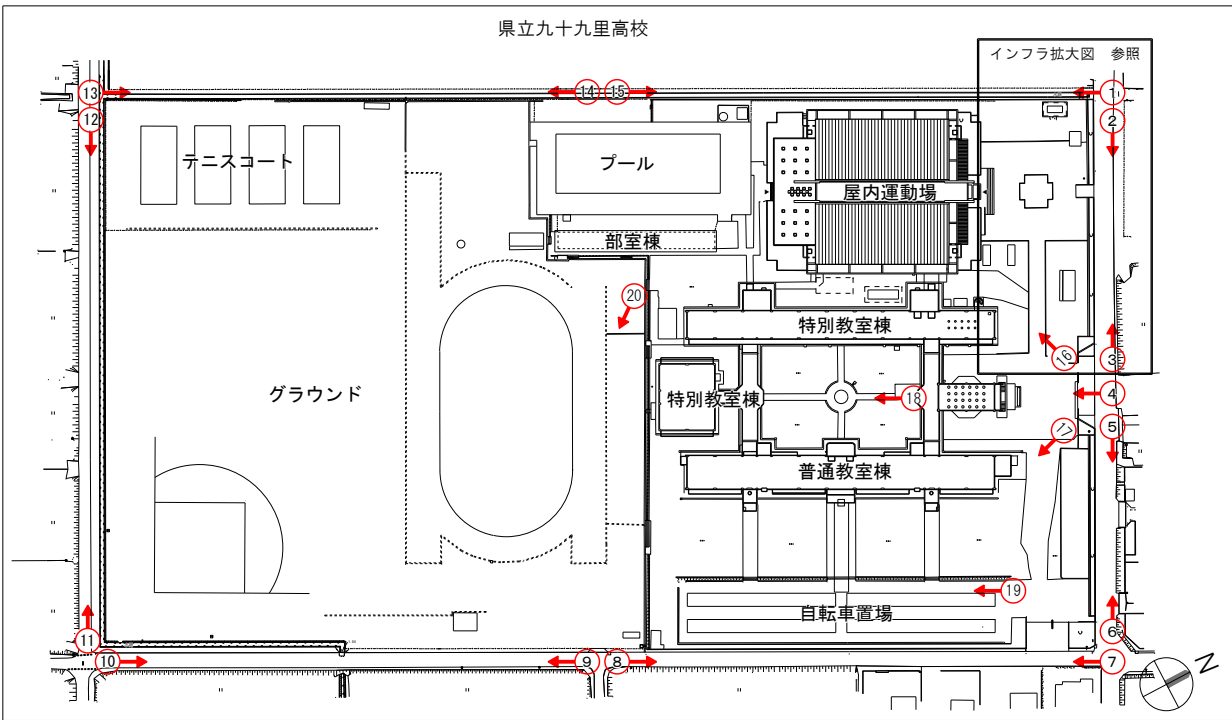


1－2．計画敷地概要①

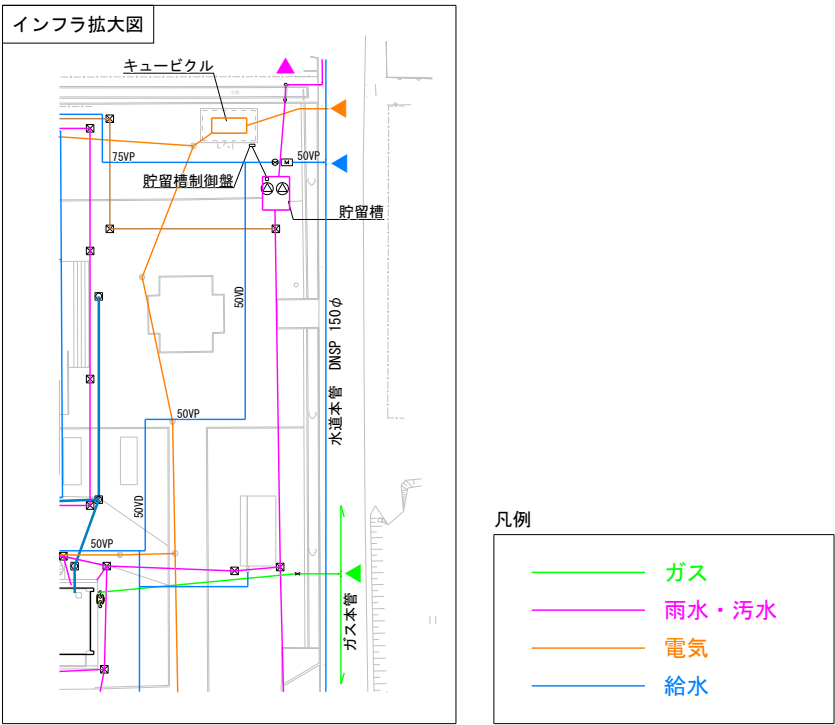
九十九里町の面積は24.44Km<sup>2</sup>、県の東部、九十九里浜のほぼ中央に位置する。  
北は山武市、西は東金市、南は大網白里市に接し、東は九十九里浜で太平洋に面している。  
計画地である九十九里中学校敷地は九十九里町北西部に位置する。海岸からの距離はおおよそ2.6Kmである。敷地西側には県立九十九里高校が隣接している。



地理院地図



計画敷地現況図



①



②



③



④



1－2．計画敷地概要②



⑤



⑥



⑬



⑭



⑦



⑧



⑮



⑯



⑨



⑩



⑰



⑱



⑪



⑫



⑲



⑳



1-3. ハザードマップ①

九十九里町は、海域を震源とする大規模地震に大きく影響を受ける地理的条件である。  
過去に被害を及ぼした地震は、関東地震（1923年）、千葉県東方沖地震（1987年）、東北地方太平洋沖地震（2011年）等である。  
九十九里町で発生した風水害は、1948年に発生したアイオン台風や1974年の集中豪雨、2009年の台風接近の影響による竜巻、2010年の高潮による被害などがあげられる。  
また、令和元年に発生した台風15号（9月9日）及び19号（10月12日）では、住家762戸が被害を受けた。

九十九里町ハザードマップより計画地の状況を示す。

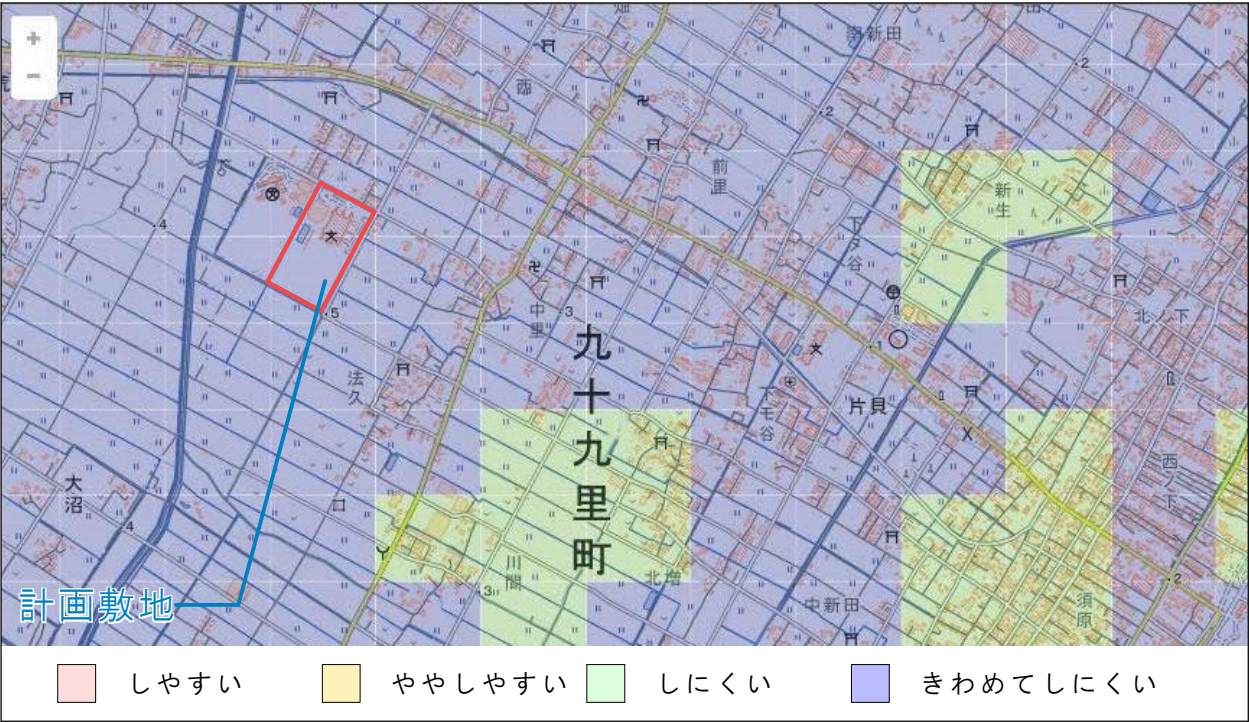
- 【資料1】揺れやすさ：1.422(SI増幅率)
- 【資料2】液状化危険度（震度6弱想定）：きわめてしにくい
- 【資料3】津波浸水深（大津波警報10m）：該当なし
- 【資料4】津波浸水深（想定最大規模）：該当なし（東側・南側道路0.5～1.0m未満）
- 【資料5】洪水浸水深（計画規模）：該当なし
- 【資料6】洪水浸水深（想定最大規模）：該当なし



【資料1】千葉県地震被害想定ホームページ 揺れやすさ（SI増幅率）  
〈ダウンロード：2024. 11. 26〉



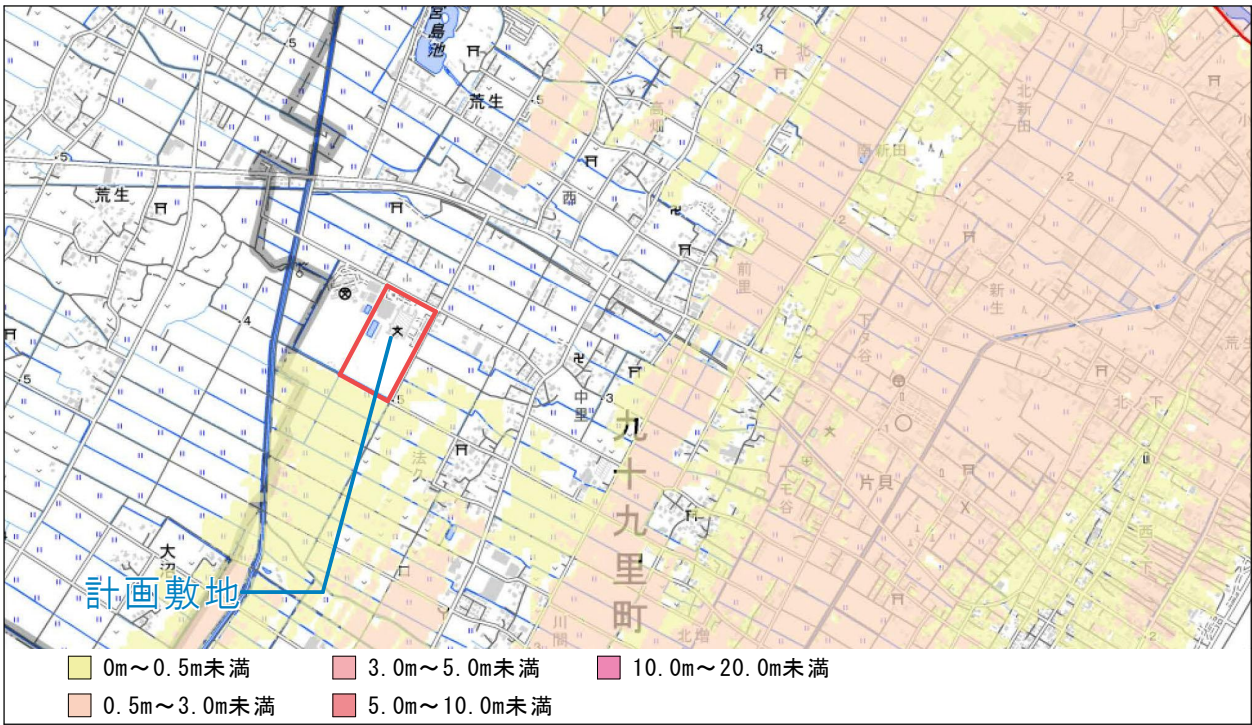
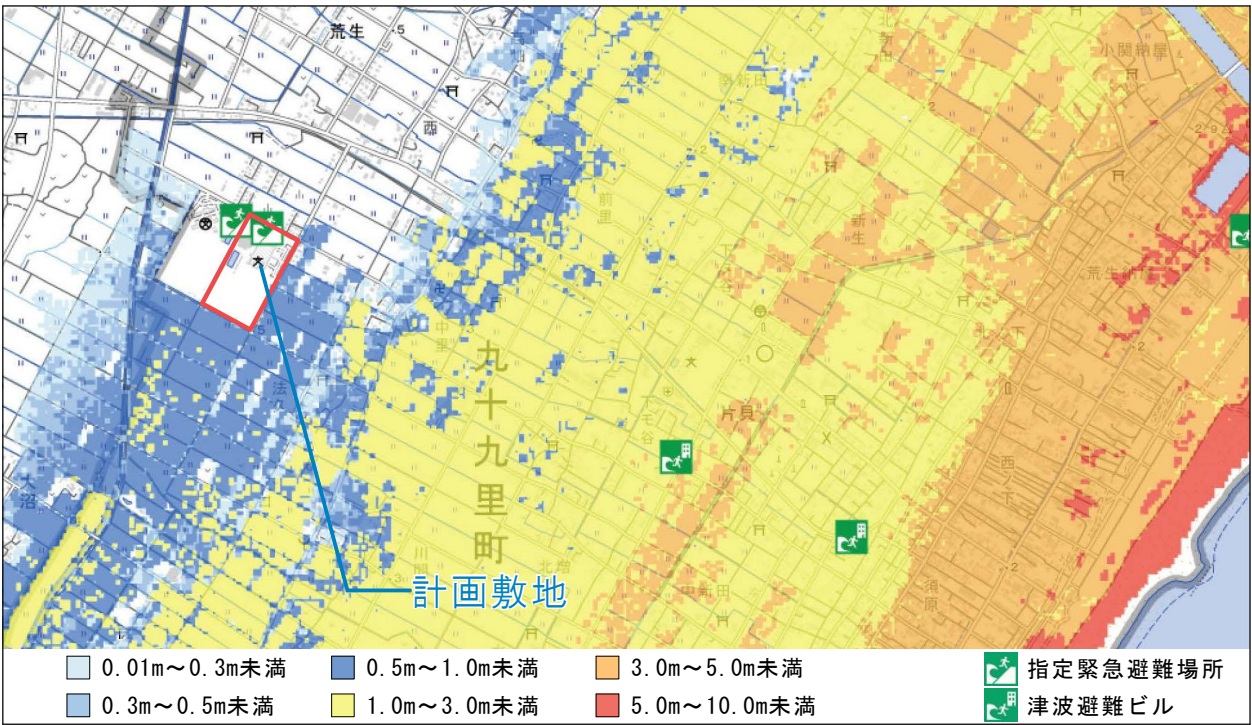
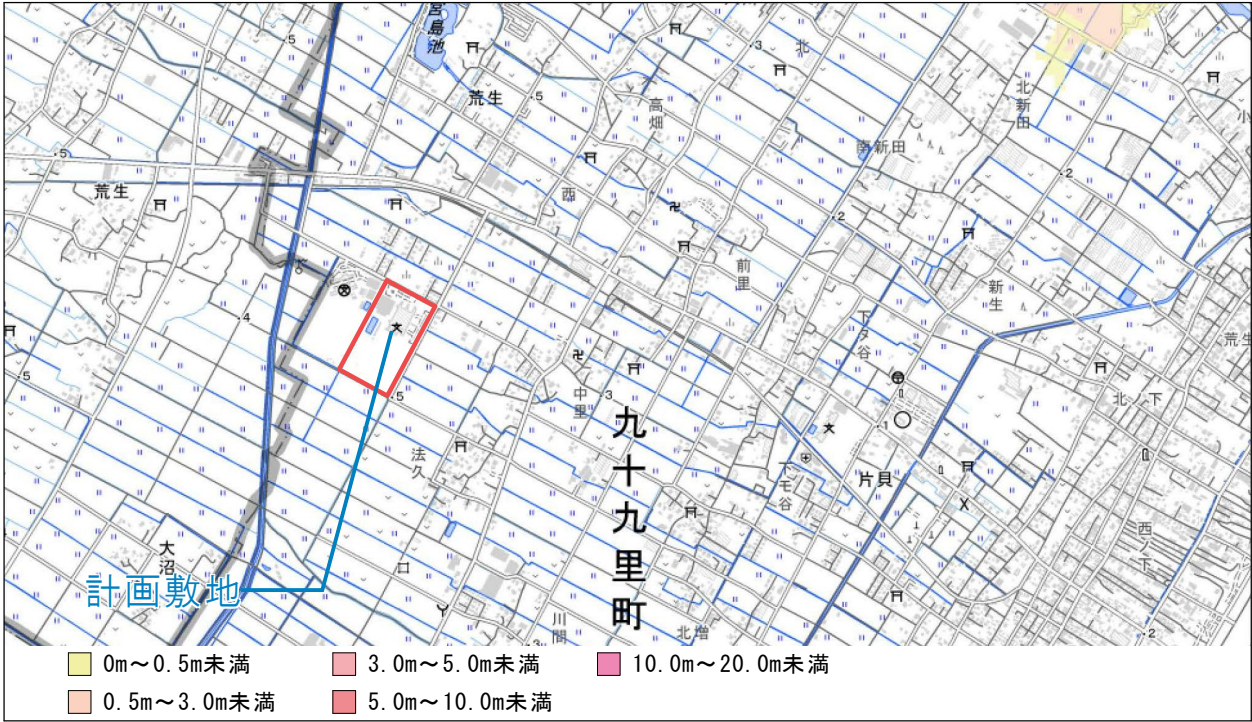
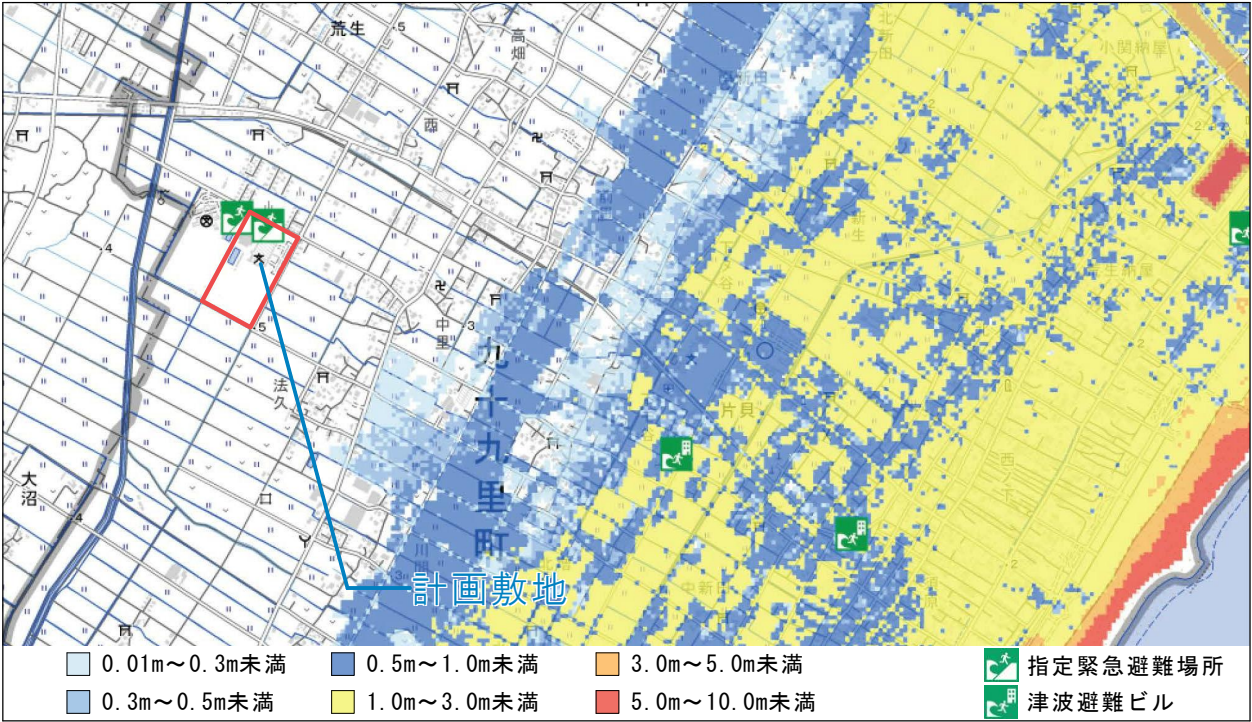
地理院地図



【資料2】千葉県地震被害想定ホームページ 液状化しやすさ（震度6弱想定）  
〈ダウンロード：2024. 11. 26〉

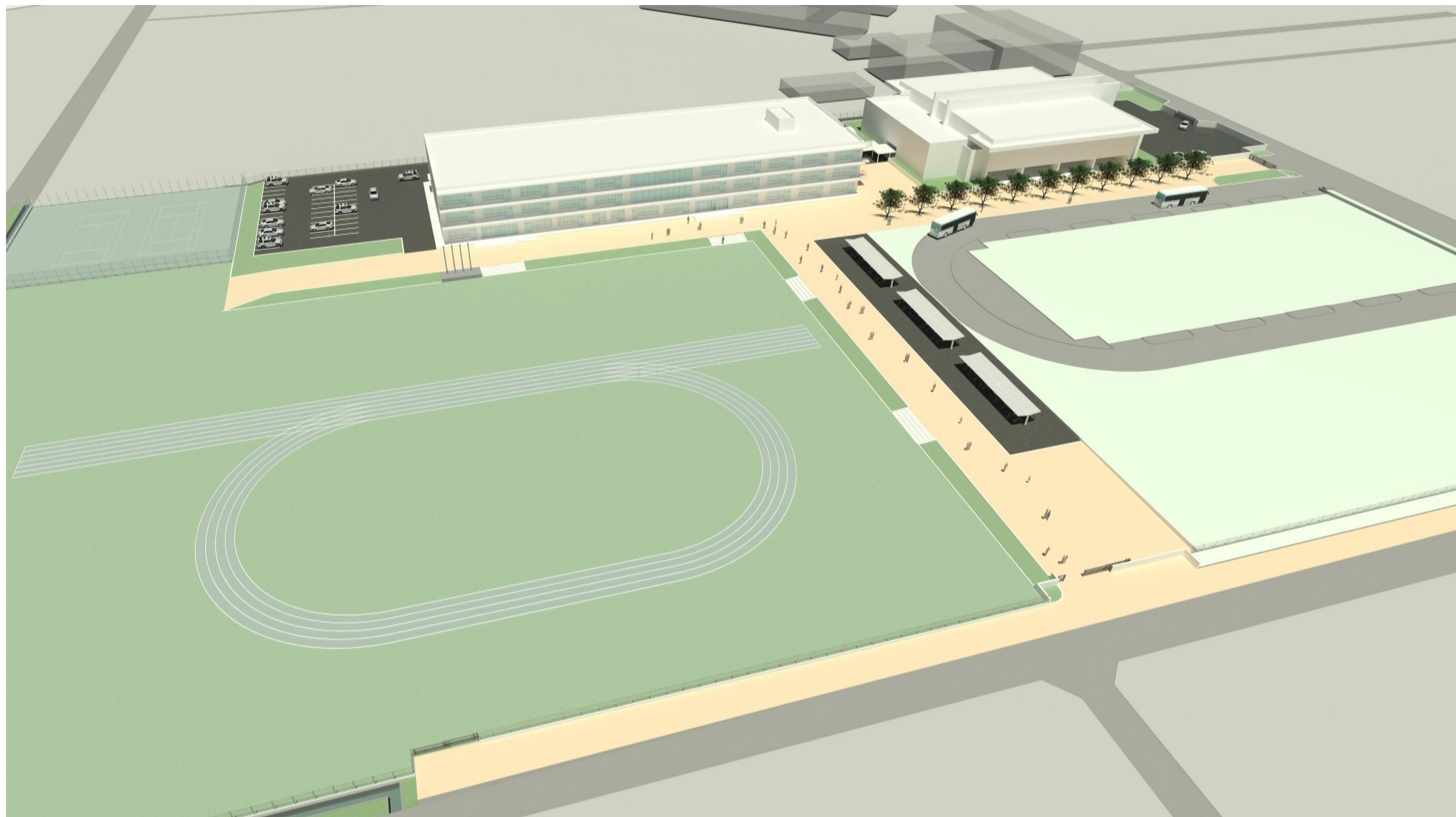


1-3. ハザードマップ②





1-4. 鳥瞰パース（完成イメージ）













敷地概要

計画敷地	【地名番地】千葉県山武郡九十九里町片貝１８９９番４ 外
都市計画区域	都市計画区域内 非線引き
用途地域	指定なし
防火地域	指定なし（法22条地域）
建蔽率/容積率	60%/200%
地区計画	リゾート地区
敷地面積	49,748.75 ㎡
日影規制	5～10m以内/10m超え：5時間/3時間
道路斜線	傾斜勾配：1.5、適用距離：20m
隣地斜線	傾斜勾配：20m＋勾配1.25
道路	北側：町道K１－３号（幅員8.1m） 東側：町道K１－３号（幅員6.6m）

建物概要

計画施設名	（仮称）九十九里町立統合小学校・九十九里中学校		
用途	小学校・中学校		
構造・階数	鉄筋コンクリート造 ・3階		
建物高さ(PH含む)	新築建物：16.70 m	既存建物：14.50 m	
建築面積	新築建物：3,102.21 ㎡	既存建物：2,215.83 ㎡	
延床面積	新築建物：8,942.21 ㎡	既存建物：3,199.73 ㎡	
建蔽率	10.68 %		
容積率	24.40 %		
防火対象物 用途区分	小学校・中学校（7）項		
収容人数想定	最大想定人数を記載 教職員 60名 児童・生徒数 415名 計 475名		

面積表

	新築		既存				
階数 棟名	校舎棟	体育倉庫	屋内運動場	防災倉庫1	防災倉庫2	防災備蓄倉庫	合計
PH	32.00 ㎡						32.00 ㎡
3	2,832.00 ㎡						2,832.00 ㎡
2	2,976.00 ㎡		983.90 ㎡				3,959.90 ㎡
1	2,976.00 ㎡	126.21 ㎡	2,177.00 ㎡	14.49 ㎡	14.49 ㎡	9.85 ㎡	5,318.04 ㎡
計	8,816.00 ㎡	126.21 ㎡	3,160.90 ㎡	14.49 ㎡	14.49 ㎡	9.85 ㎡	12,141.94 ㎡

※駐輪場の面積は除く

所要諸室

			小学校	中学校
校 舎	普通教室 他		・ 普通教室（10室）	・ 普通教室（7室）
			・ 特別支援教室（3室）	・ 特別支援教室（2室）
			・ 言語指導室	・ 適応指導室
			・ 適応指導室	
	特別教室		・ 理科室・ 理科準備室	・ 理科室・ 理科準備室
			・ 図工室・ 図工準備室	・ 美術室・ 準備室
			・ 音楽室	・ 技術室・ 技術準備室
			・ 外国語教室	・ 音楽室
	管理諸室		・ 校長室	・ 校長室
			・ 職員室	・ 職員室
			・ 保健室・ 相談	・ 保健室・ 相談
			・ 教育相談室	・ 教育相談室
			・ 書庫	・ 書庫
				・ 進路指導室
	共有部分	特別教室	・ 音楽準備室	・ 多目的ホール
・ 家庭科室・ 家庭科準備室			・ 図書室	
・ 多目的スペース				
管理諸室		・ 会議室	・ 印刷・ 給湯・ 休憩室	
		・ 応接室	・ 倉庫・ 収納	
		・ 教材室	・ サーバー室	
		・ 職員トイレ	・ 職員更衣室	
		・ 放送室	・ メモリアルスペース	
		・ 給食室	・ 配膳室	
その他		・ 廊下・ 階段	・ 昇降口・ 玄関	
		・ 児童・ 生徒トイレ	・ エレベーター	
		・ 児童・ 生徒会室	・ 児童・ 生徒更衣室	
複合施設		・ 学童事務室	・ 学童室	
		・ 学童トイレ		
その他施設	屋外施設	・ 屋外倉庫		

外構・その他

- ・駐輪場・職員用駐車場
  - ・駐輪場は、200台を確保し、昇降口へアクセスしやすい配置とする。
  - ・職員用駐車場は校舎裏に配置し、児童・生徒・保護者の動線と交差しない計画とする。

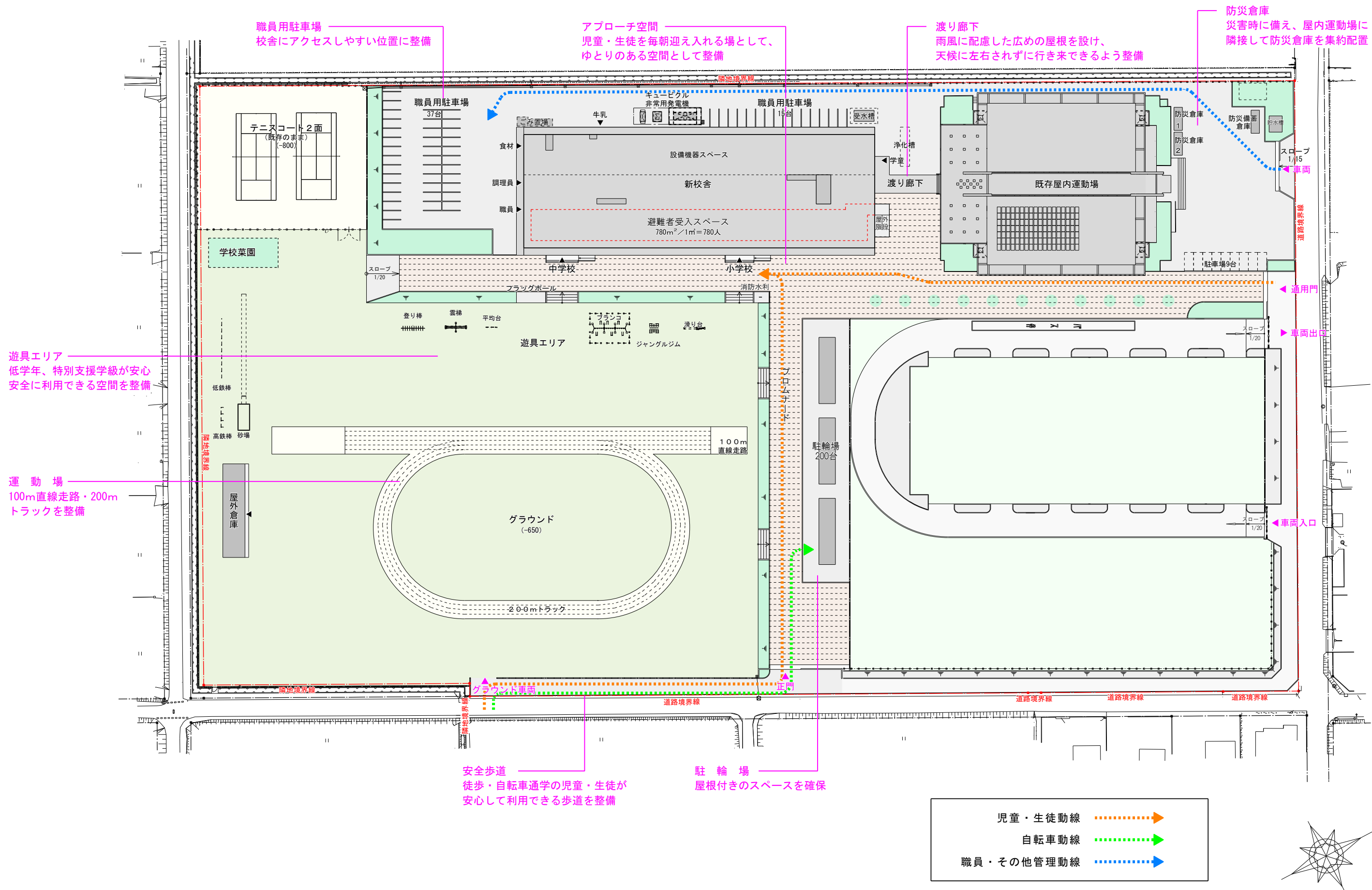
- ・遊具エリア
  - ・小学校児童用に固定遊具を設置した遊具エリアの整備を計画。遊具エリアは職員室等の管理諸室から見渡せる位置に配置する。

- ・渡り廊下
  - ・新校舎から既設屋内運動場へアクセスするために、渡り廊下の整備を計画。

- ・その他
  - ・外灯は、駐輪場・職員駐車場のそれぞれの利用形態・動線に応じた照度を確保。



2-1. 配置計画





2-2. 平面計画

■平面計画のコンセプト

1. 主体的・対話的で深い学びの空間

・メディアセンターを学校の中心に配置。多様な学習形態に対応

・多目的ホールと連携し、協働的な学びを促す空間を整備

2. 健康的かつ安全で豊かな施設環境の確保

・自然採光・通風を取入れ設備機器に頼らない学習環境を構築

・バリアフリーに配慮した安全な施設環境を整備

3. 機能的でわかりやすい平面計画

・両端の階段配置により、避難時もスムーズな動線を確保

・防犯性、安全性を備えた死角のない施設環境を整備

■ゾーニング計画

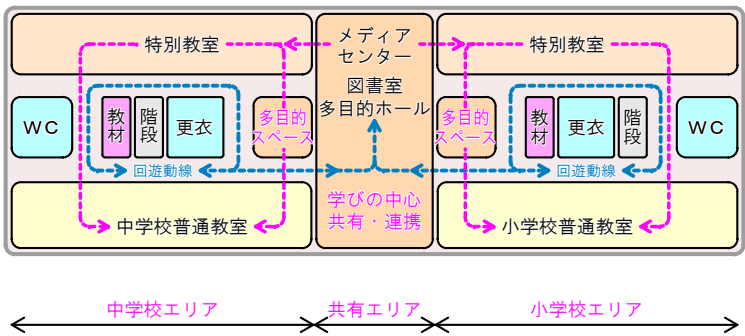
- 2・3階ゾーニングの特徴
- ・小・中それぞれのエリアを明確に分離

・小・中それぞれに階段を設置

・共有・連携エリアは校舎中央に配置

・回遊動線を設け、移動効率を高める

2, 3階



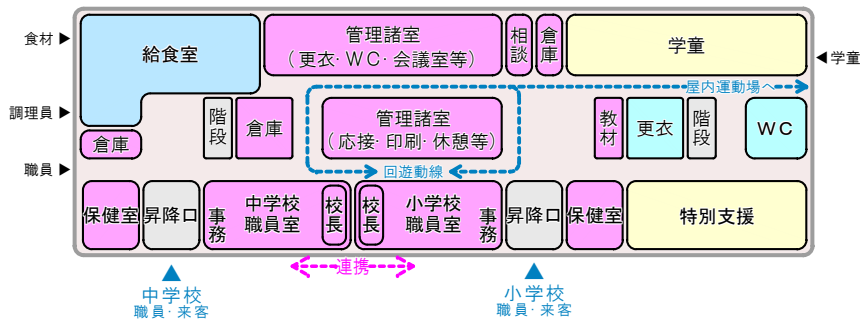
- 1階ゾーニングの特徴
- ・管理ゾーンを集約、連携、見守りを重視

・学童は学校と明確に分離、管理しやすい計画

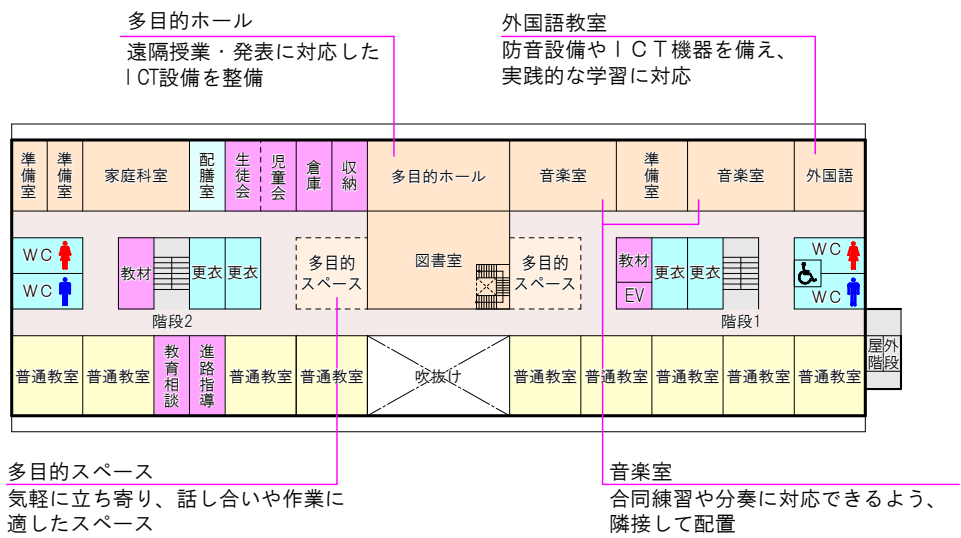
・昇降口前を広い空間とし、混雑緩和を図る

・回遊動線を設け、移動効率を高める

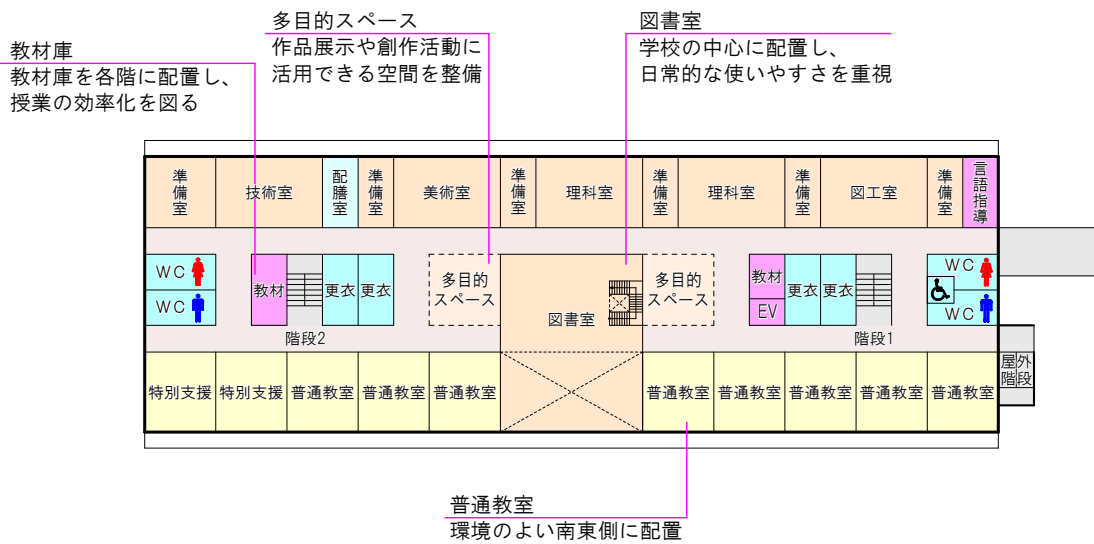
1階



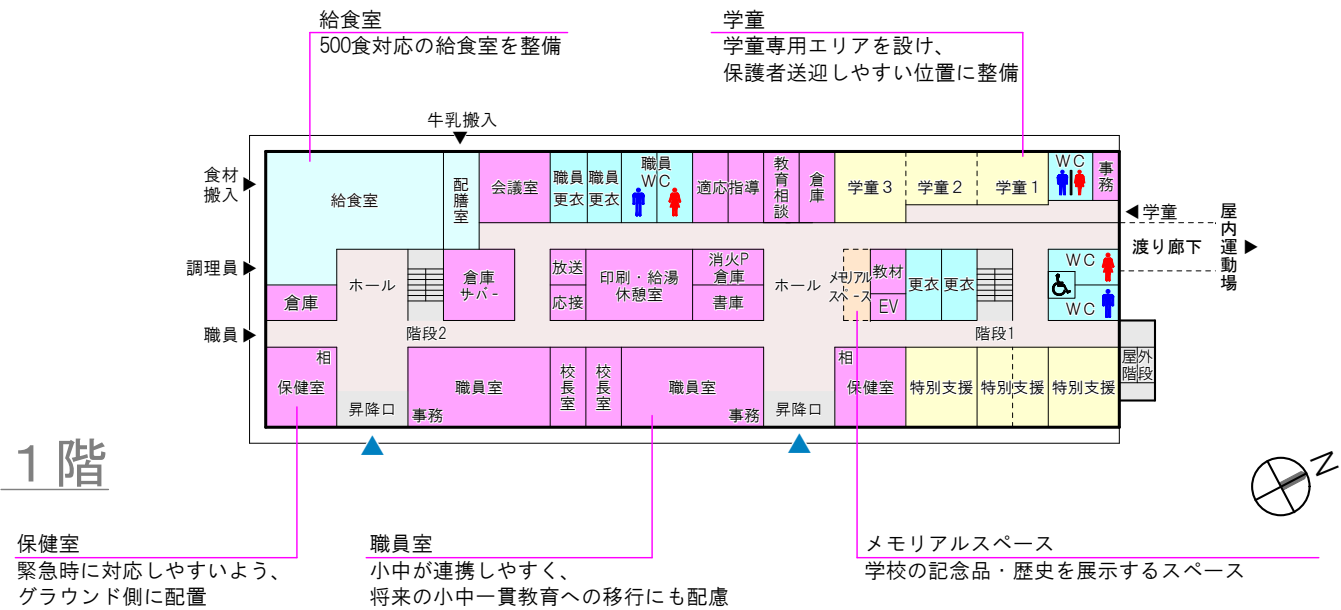
3階



2階



1階





3－3．立面断面計画

■立面計画の考え方

- ・豊かな田園風景が広がる地に建つ学校として、周辺地域との調和した計画
- ・児童・生徒の活動が感じられるよう、明るく開放的な大きな開口部を計画
- ・夏季の太陽高度に配慮した庇を設置し、熱負荷を低減

■断面計画の考え方

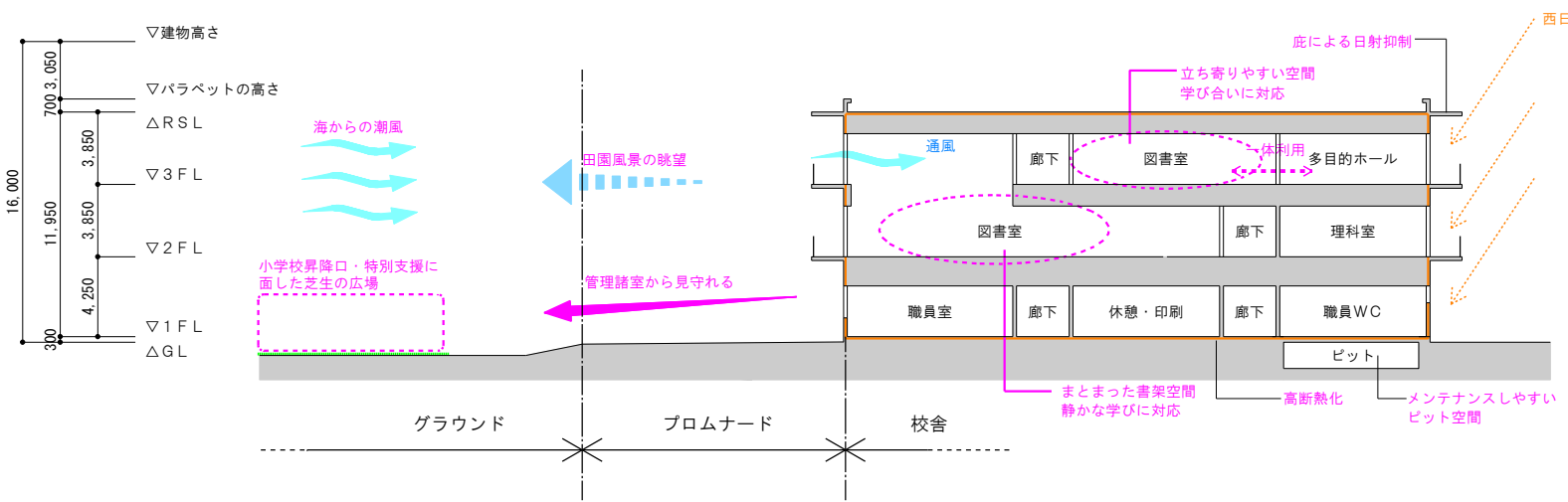
- ・小学校と中学校の交流・連携を促すため、建物の中心にメディアセンターを計画
- ・天井高さを2.7mとし、基準階高設定を3.85mとして計画
- ・各エリアを明確にゾーニングした断面計画、水廻りは各フロア同一に計画
- ・1階の床下には、各種設備配管のメンテナンス性を考慮し配管ピットを必要なエリアに計画

■立面計画イメージ

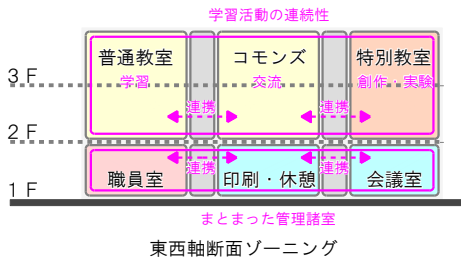
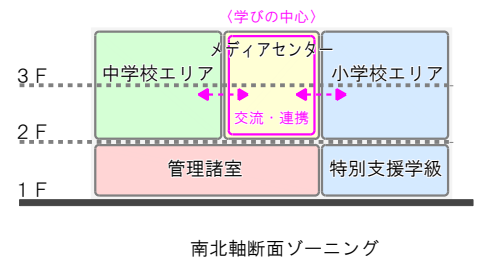


※外観の形状・色彩計画については実施設計にて検討

■断面計画イメージ



- 各フロア同一のゾーニングとしたわかりやすい教室配置
- 学びの中心（メディアセンター）を校舎中央に配置



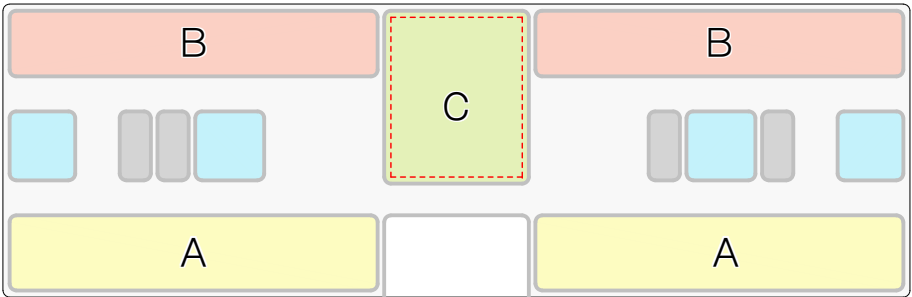


2-4. 内装仕上計画

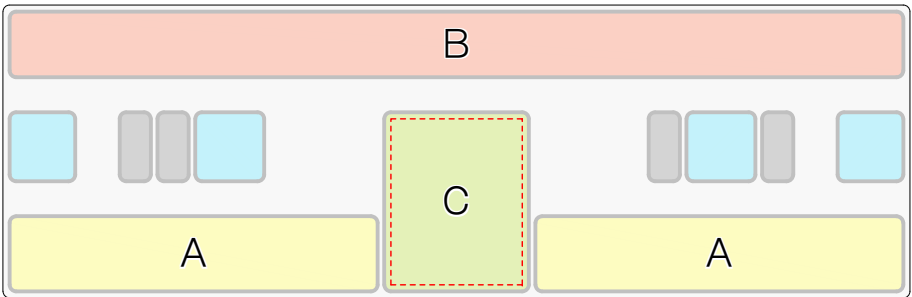
■内装仕上計画の方針

- ・各特性を配慮し明確にゾーニング分けした仕上計画とする。
- ・教室の天井材は吸音性のある仕上げとし、学習環境に配慮する。
- ・各トイレの壁には抗菌・抗ウイルス・消臭・防カビ防汚対応の材料を選定する。

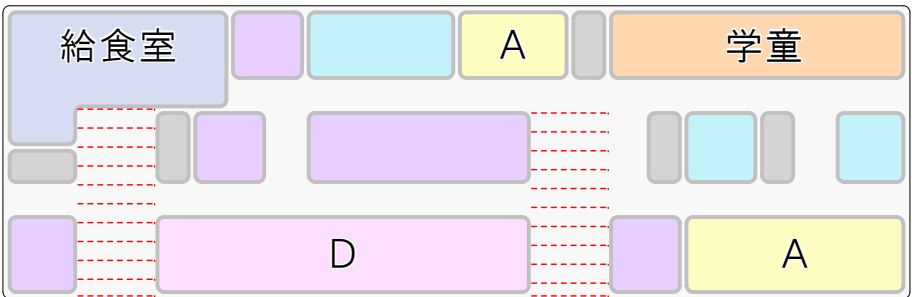
3F



2F



1F



凡例

- トイレ等
- 倉庫等
- その他管理諸室
- 重点的に木質化する場所

Cゾーン

メディアセンターエリア  
多目的ホール

- 床 複合フローリング
- 壁 木質化を強化
- 天井 吸音用穴あき石膏ボード  
内装用細木繊維化粧板

木質化で温かみのあるメディアセンター



メディアセンターイメージ

Dゾーン

職員エリア

- 床 O Aフロア ビニル床タイル
- 壁 強化石膏ボード E P-G
- 天井 化粧石膏吸音ボード

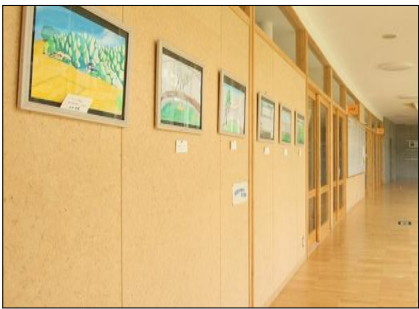
情報機器の変更に対応できる職員室



職員室イメージ

木質化の考え方

- ・1階玄関ホールを木質化し、毎朝登校する児童・生徒や地域住民を温かく迎え入れる計画とする。
- ・ホールやメディアセンターなど、こどもが集う場所には木質化を特に図り、児童・生徒や保護者の記憶に残る校舎を計画する。
- ・共用部には掲示しやすいO S Bボードを採用し、掲示の利便性を高めつつ、木の質感を活かした温かみのある空間を創出する。



O S B掲示イメージ



木質化イメージ

Aゾーン

普通教室、  
特別支援学級エリア

- 床 複合フローリング
- 壁 強化石膏ボード E P-G
- 天井 化粧石膏吸音ボード

明るく開放感のある普通教室



普通教室イメージ

Bゾーン

特別教室エリア

- 床 長尺ビニル床シート
- 壁 強化石膏ボード E P-G
- 天井 化粧石膏吸音ボード

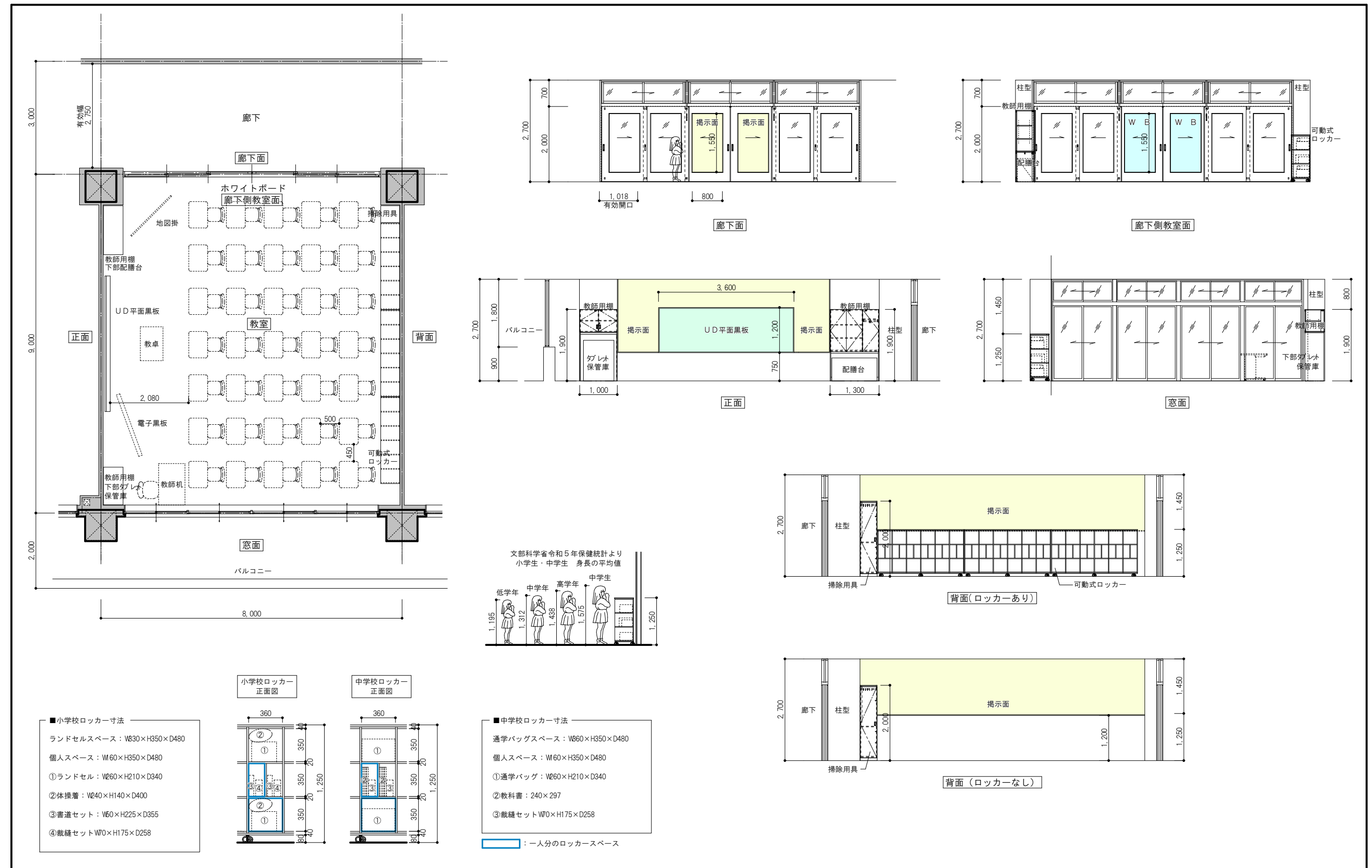
白を基調とした清潔感のある特別教室



理科室イメージ

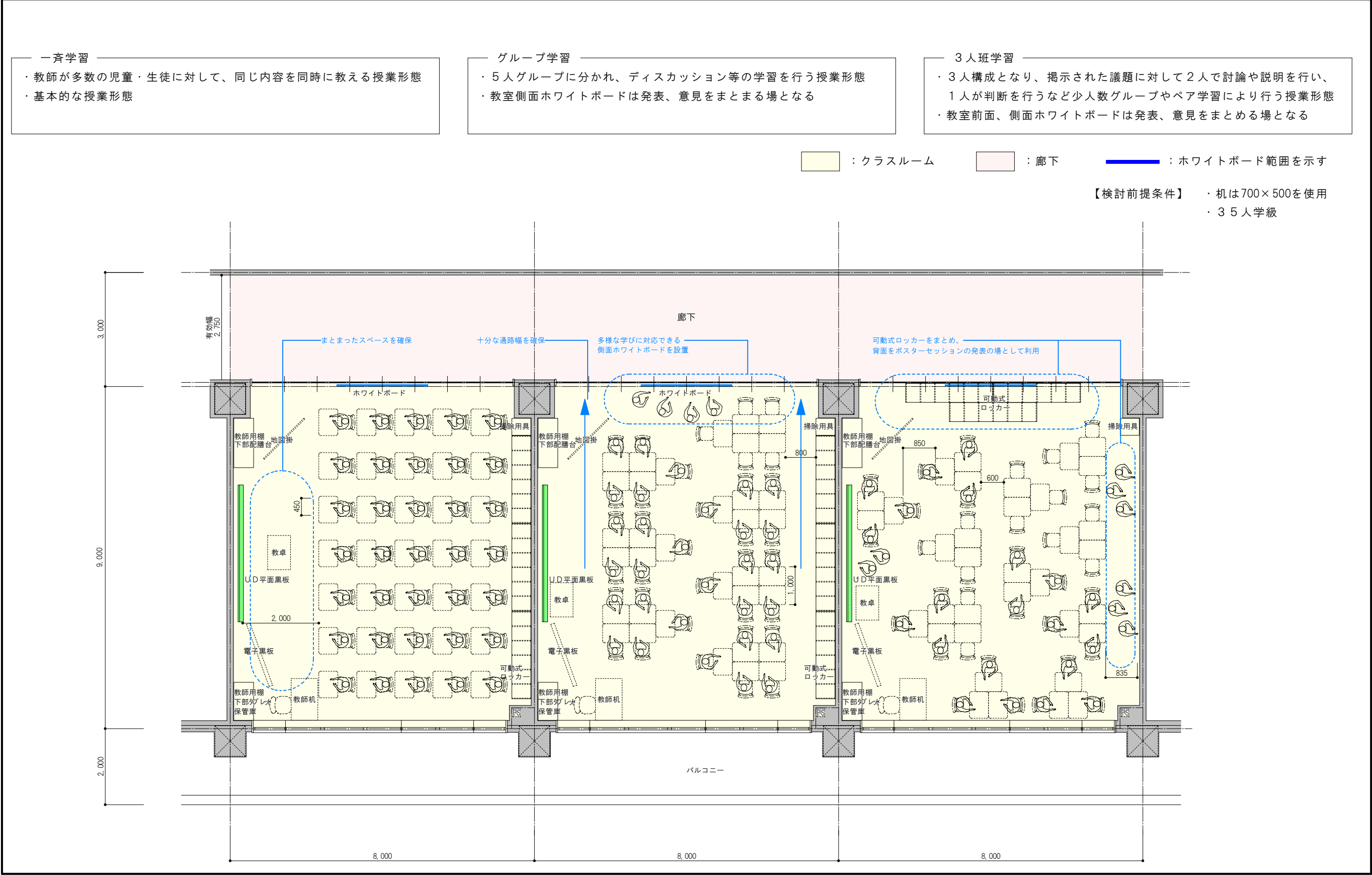


## 2-5. 普通教室計画①





2-5. 普通教室計画②

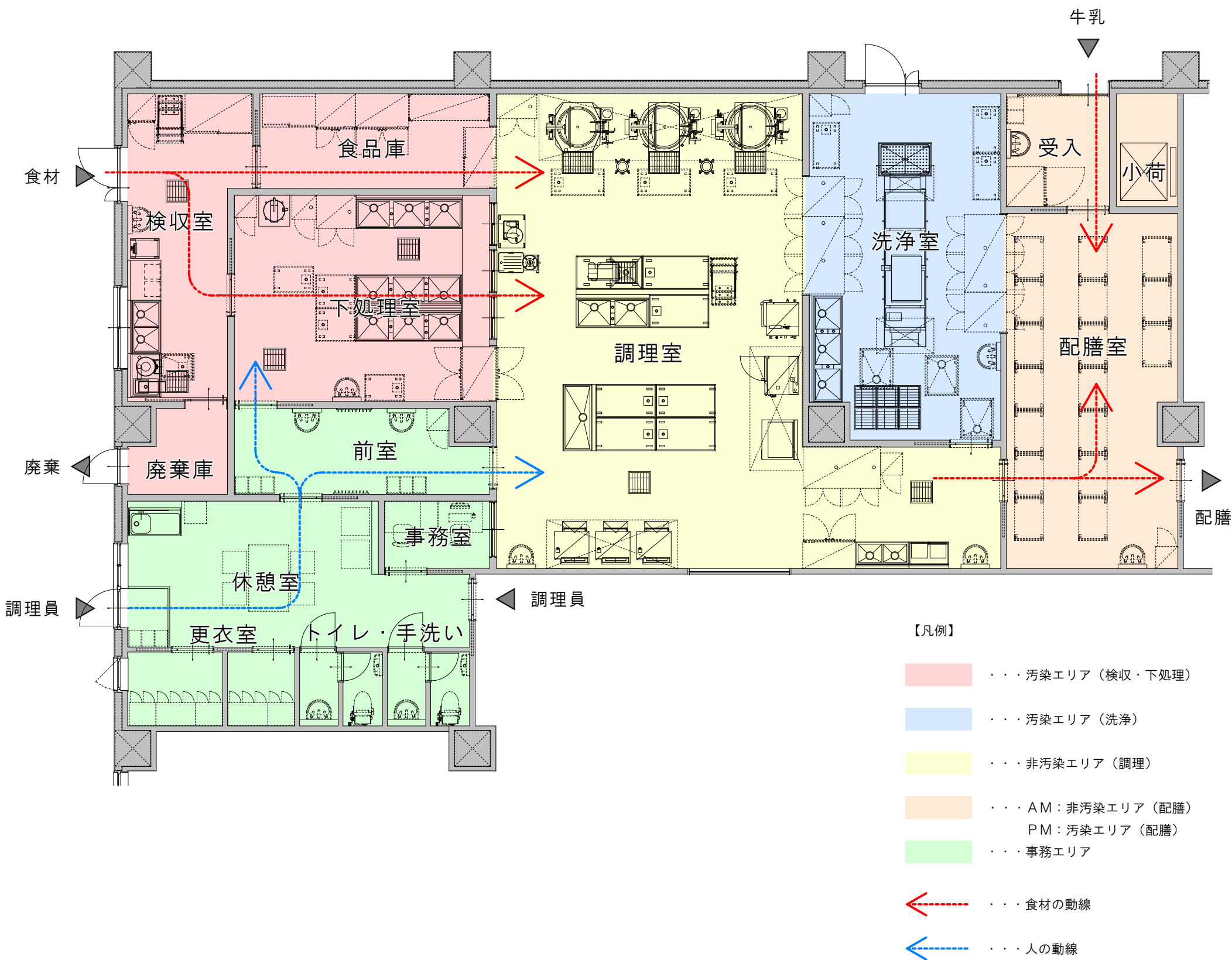




2－6．給食室計画

■給食室の設計方針

- ・給食室はH A C C Pの考え方や学校給食衛生管理基準（文部科学省告示第64号）等に基づき、衛生的かつ安全性の高い施設設備となるよう整備をおこないます。
- ・学校給食施設に必要となる部屋等に準じて整備をおこないます。また各部屋は床材の色分けで区別をおこないます。食材の運搬や調理員の移動に伴う二次汚染防止の観点から汚染エリアと非汚染エリアを明確にし、交差汚染の無いように配置します。
- ・給食室はドライ方式の運用に基づきドライシステムで整備をおこないます。細菌・カビの繁殖の抑制、食中毒菌による二次汚染防止に努めます。
- ・各階への配膳は小荷物専用昇降機による配膳方法を採用します。
- ・施設内の壁や柱のコーナー部分には衝突による破損やその建材による異物の混入を未然に防ぐためコーナーガード等で補強をおこないます。
- ・ドア・扉は可能な限り引き戸（ハンガードア）とし、肘等でも開けられる大型の引手を設置します。



	省エネ手法	採用	対応
建築	高断熱化	○	外壁断熱材の厚み50mm、屋根断熱材の厚み100mm
	高性能ガラス	○	Low-E複層ガラスの採用
	日射遮蔽(庇・ルーバー)	○	バルコニー・庇で対応※1
	建物緑化(屋上・壁面)	×	敷地全体に適宜植栽を整備
	自然換気	○	外部に面する開口部を大きく設け、自然換気を促す計画
	自然採光(トッブライト・ハイサイドライト)	×	
	ライトシェルフ	×	
	地域材利用	○	木材利用の促進 ※2
電気設備	高効率変圧器	○	トップランナー制度対象
	高効率照明器具	○	LED照明+トップランナー制度対象 ※3
	人感センサ	○	トイレ・更衣室等に採用(消忘れ等無駄な電力削減) ※4
	昼光センサ、自動点滅制御	×	
	BEMS	×	
機械設備	高効率空調機器	○	高効率エアコンの採用、居住域空調、全熱交換器の採用
	高効率給湯器	○	潜熱回収型給湯器
	井水利用	×	
	雨水利用	×	
	節水型衛生器具	○	節水型トイレの採用
	自動水栓	○	節水・感染症対策※5
	昇降機設備の省エネルギー化	×	
再生可能エネルギー	太陽光発電	×	
	太陽熱給湯	×	
	地中熱利用	×	
その他	燃料電池	×	
	蓄電池	×	
	敷地内緑化	○	緑化率20%確保(グラウンド芝舗装含む) ※6
	雨水貯留タンク・浸透枳の配置	×	敷地内浸透
	電気自動車充電設備(普通・休息)	×	



※1 庇・ルーバー



※2 地域材利用



※3 LED照明



※4 人感センサー



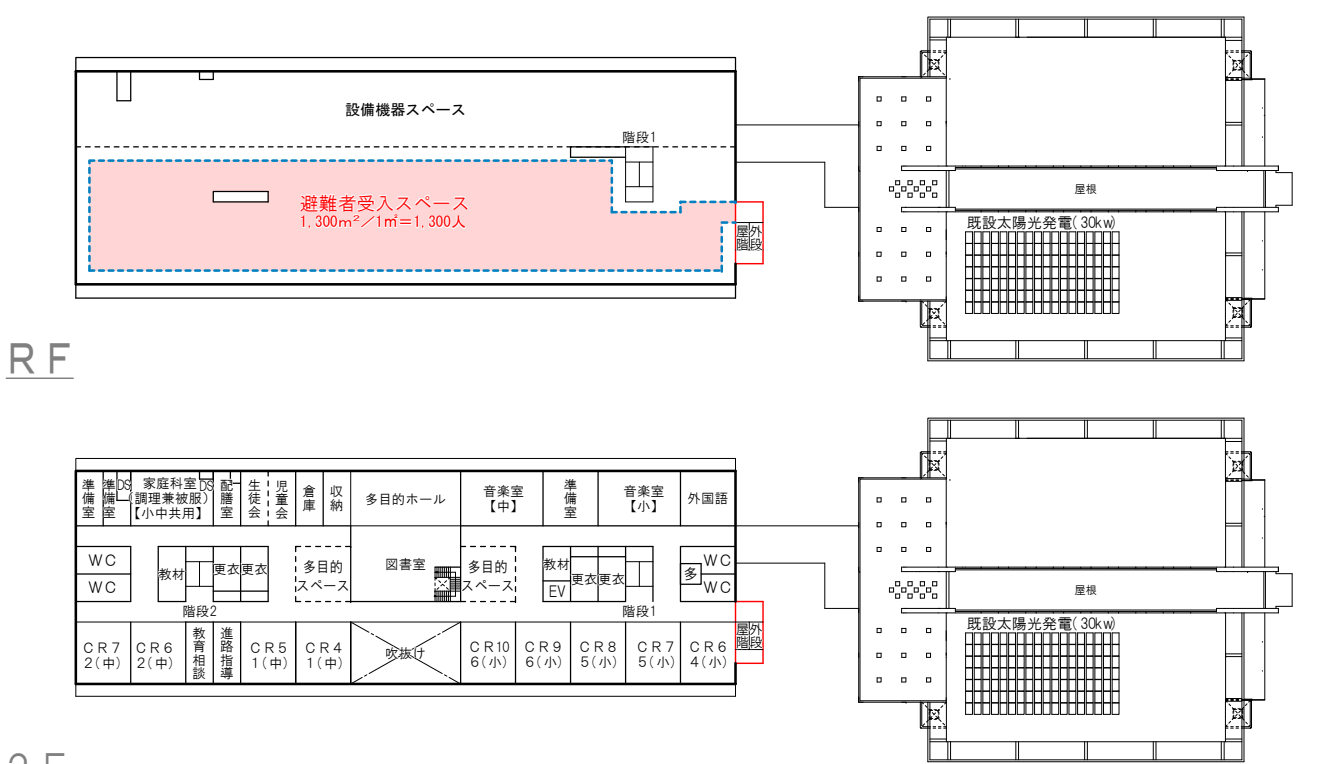
※5 自動水栓



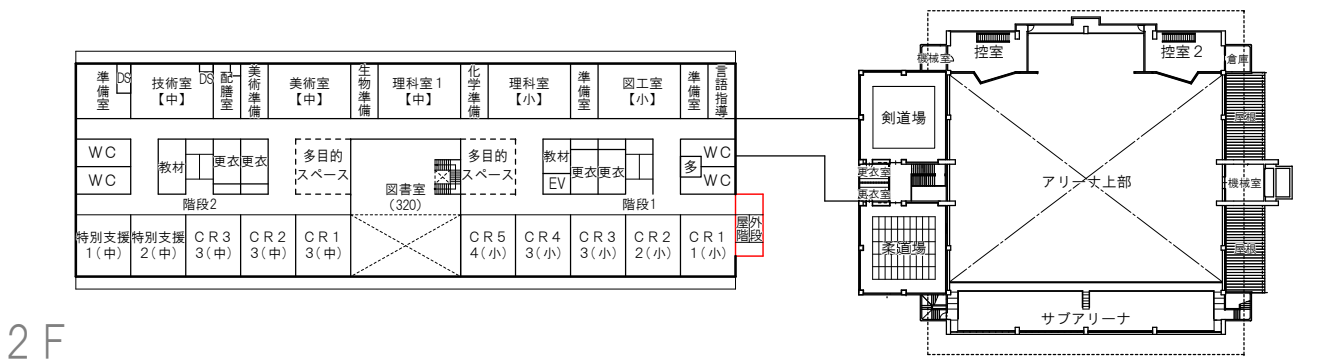
※6 敷地内緑化



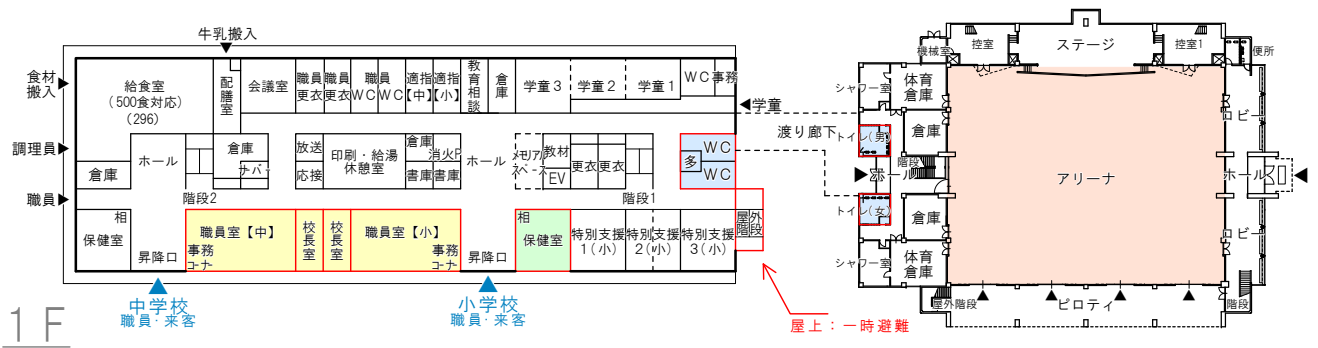
2-8. 防災計画



3F



2F



1F

■災害時対応エリア

職員活動エリア	職員室、校長室
避難スペース	アリーナ
水害時：一時避難スペース	屋上
災害時トイレ利用	1階北側トイレ、屋内運動場トイレ
救護室	保健室

■避難者受入人数について

- ・移動や休息、プライバシーの確保を考慮し、1人当たりの専有面積を4.0㎡で算出
- ・屋内運動場(アリーナ)：182人
- ・駐車場も車中泊避難を想定(220台+災害時はグラウンドの利用も想定)

■災害時に必要となる設備の取組(停電、断水時想定)

電気設備

- ・非常用発電機：24時間対応
- ・ソーラー外灯：屋外照明
- ・太陽光発電(既存利用)：屋内運動場の照明、コンセントに対応

機械設備

- ・受水槽：受水槽に残った水を雑用水として利用

■非常用発電機の給電先について

屋内運動場(アリーナ)は既存の太陽光発電を使用し、新校舎部分には非常用発電機を想定。災害直後の物資や支援が十分でない初期(発生後24時間)に、電力を供給できることを最優先に検討する。

室名	対象負荷	備考	凡例
アリーナ	照 空	・既存太陽光発電にて給電	
職員室(中)	照 空		
校長室(中)	照 空		
1階トイレ(北側)	照 空		
屋体トイレ(男女)	照 空	・照明は既存太陽光発電にて給電	
職員室(小)	照 空		空・・・空調
校長室(小)	照 空		照・・・照明(50%の照明を点灯)
保健室	空 照 空		空・・・コンセント(1~2箇所)
			空・・・動力ポンプ

■災害後のシミュレーション

●4日目以降は電源車・給水車等の支援

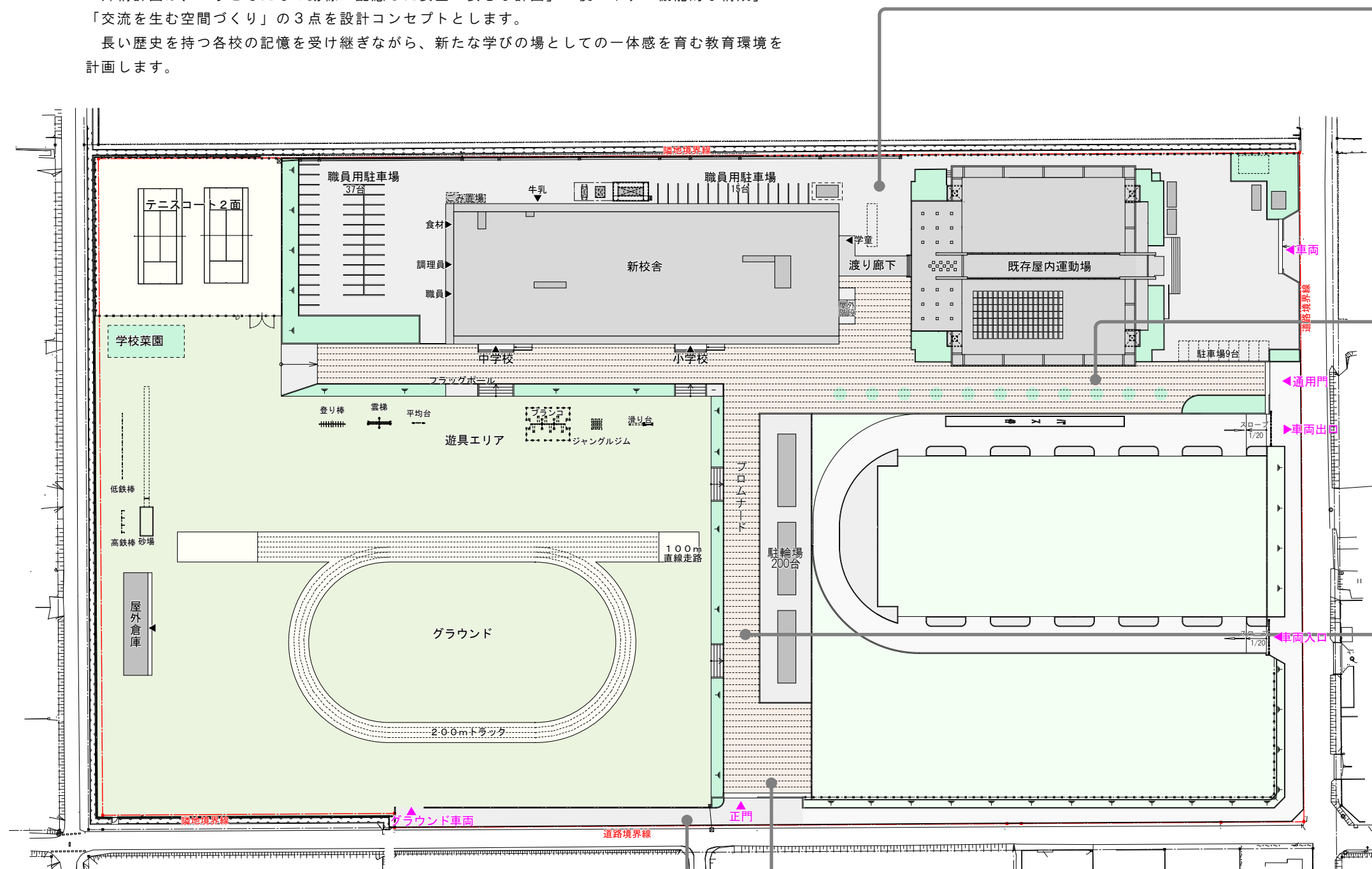
		1日目(発災)	2日目	3日目	4日目	5日目
支援等	電気				移動電源車による電力供給(電源接続盤)	
	給水				給水車による飲料水を補給	
	汚水				汲取り車による汚物の汲取り	
建物内 ライフ ライン	電気	非常用発電機による電力供給※3(屋内運動場は既存太陽光発電で供給)			移動電源車による電力供給(電源接続盤)	
	飲料水	ペットボトル対応(備蓄倉庫※1)			給水車による飲料水を補給	
	雑用水	受水槽内の水を使用				
	災害用トイレ	新校舎1階北側トイレ	屋内運動場トイレを利用(不足分は携帯トイレで対応※2)			
	ガス	カセットコンロ対応				

※1：現在の備蓄倉庫に飲料水500mlが3,075本備蓄されている(九十九里高校分含む)  
災害時に必要とされる飲料水の量は、一人あたり1日3リットル×3日分=9リットルである  
※2：現在の備蓄倉庫に携帯トイレは400回分×29セット備蓄されている(九十九里高校分含む)  
※3：ポータブル発電機も併せて利用(スマホ充電、ラジオなど)

九十九里町立統合小学校校舎建設・九十九里中学校校舎改築工事

外構計画は、「子どもたちの動線に配慮した安全・安心な計画」「使いやすい機能的な構成」「交流を生む空間づくり」の３点を設計コンセプトとします。

長い歴史を持つ各校の記憶を受け継ぎながら、新たな学びの場としての一体感を育む教育環境を計画します。



【エリア方針】

- ・校舎裏には、職員や給食車両が安全に通行できるよう、見通しの悪い箇所には安全対策を施した計画とします。
- ・駐車場はゆとりを持たせた配置とし、可能な限り多くの台数を確保します。

- ・アスファルト舗装

【エリア方針】

- ・スクールバス利用者が通行しやすい通路を整備し、安全かつ円滑に乗降できる環境とします。
- ・桜並木や四季折々の樹木を植栽し、季節の変化を感じられる空間とします。

・インターロッキング舗装

【エリア方針】

- ・プロムナードはグラウンドと駐車場の緩衝帯となり、校舎へとつながる明るく楽しく歩ける道とします。
- ・桜並木や四季折々の樹木を植栽し、季節の変化を感じられる空間とします。

・インターロッキング舗装

【エリア方針】

- ・ 徒歩や自転車で登校する児童・生徒が安全に通行できる歩道を設けます。
- ・ 東側法面に低木や地被類を植栽し、緑豊かで季節を感じられる環境とします。

【舗装】

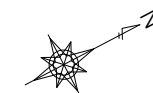
- ・ アスファルト舗装

【エリア方針】

- ・明るく快適な雰囲気を出し。児童・生徒を暖かく迎え入れる空間とします。

【舗装】

- ・インターロッキング舗装





2-10. 屋外体育施設計画

■グラウンドレイアウトの検討

グラウンドは小学生と中学生が共に利用できるよう計画し、200mトラックを中心に計画。  
小学生や特別支援学級の児童が安全に活動できるよう遊具エリアはクッション性の高い芝生舗装とする。  
職員が見守りやすい配置とし、安全で快適な運動環境を実現する。

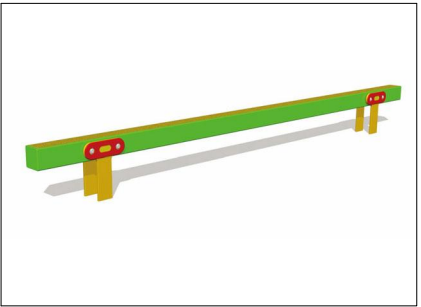
○グラウンドの屋外体育施設

- ・ 200mトラック
- ・ 100m直線走路
- ・ 砂場＋走り幅跳び走路
- ・ 遊具等
- ・ テニスコート2面

■屋外体育遊戯施設の検討

屋外遊具施設は、町内小中学校の遊具を参考に下記のものを計画。  
遊具の配置は、左下図参照。

- |            |          |          |
|------------|----------|----------|
| ○平均台       | ○雲梯      | ○ジャングルジム |
| ○ブランコ(6人乗) | ○滑り台     | ○登り棒     |
| ○低鉄棒(9欄)   | ○高鉄棒(3欄) |          |



平均台



雲梯



ジャングルジム



ブランコ(6人乗)



滑り台



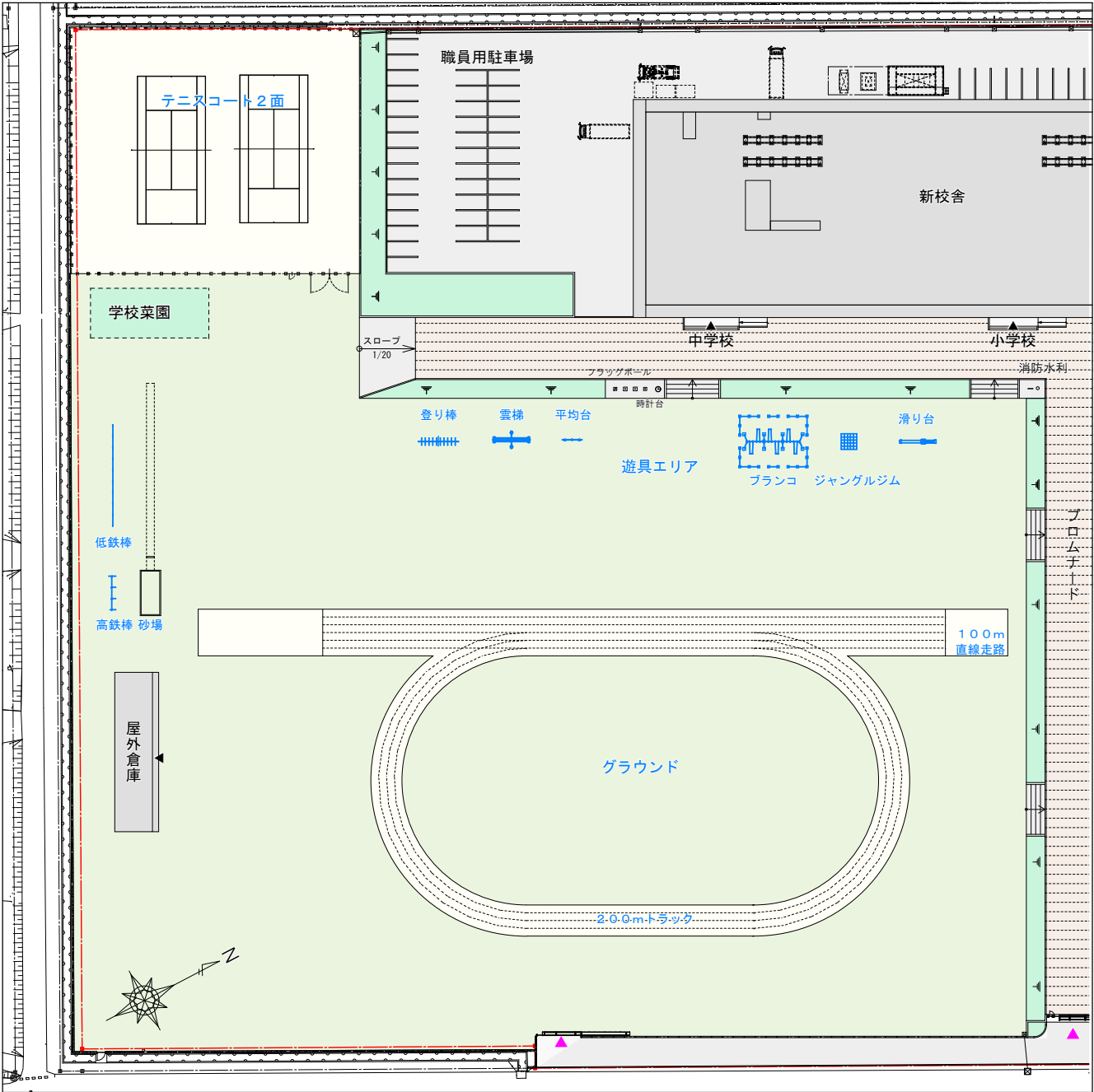
登り棒



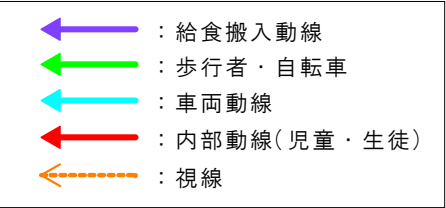
低鉄棒(9欄)



高鉄棒(3欄)



2-11. 配置計画比較検討



	A 案		B 案		C 案		D 案	
	校舎棟を西側、駐車場を東側に配置した案		校舎棟を中央、駐車場を東側に配置した案		校舎棟を東側、駐車場を北側中央に配置した案		校舎を小中別々で2棟配置した案	
配置計画								
グラウンドスペースの環境	○	B・C案と比べ小さい。建物の影を落とさず、グラウンド環境が良い。	◎	グラウンドスペースを広く確保可能。建物の影を落とさず、グラウンド環境が良い。	◎	グラウンドスペースを広く確保可能。建物の影を落とさず、グラウンド環境が良い。	○	B・C案と比べ小さい。建物の影を落とさず、グラウンド環境が良い。
校舎棟の環境	◎	南東側がグラウンドであり、環境が良い。校舎棟が海に対して平行配置のため、風通しが良い。	○	南側がグラウンドであり、環境が良い。南側に面する普通教室は西日の影響を受けるため、対策が必要。	○	東側が住宅のため、普通教室からの眺望に影響がある。校舎棟が海に対して平行配置のため、風通しが良い。	◎	南東側がグラウンドであり、環境が良い。校舎棟が海に対して平行配置のため、風通しが良い。
外部動線	◎	歩行者・自転車・自動車の分離が可能。給食搬入動線も他の動線と交差しない。	○	歩行者・自転車・自動車の分離が可能。給食搬入動線と児童・生徒動線が交差するので安全面に配慮が必要。	△	歩車分離ができない。給食室へのアクセスは良い。	◎	歩行者・自転車・自動車の分離が可能。給食搬入動線も他の動線と交差しない。
内部動線	◎	広場を中心に各施設が繋がっており生徒動線がコンパクトにまとまっている。	○	校舎棟が敷地中央部にあるため、各施設へのアクセスはしやすい。	△	校舎棟と屋内運動場との距離（渡り廊下）が長い。	△	中学校校舎から屋内運動場までの動線が長い。校内給食動線も長くなるので、使い勝手が悪い。
地域への開放	◎	グラウンド・広場・屋内運動場・駐車場がまとまり連携が可能。	△	校舎棟が敷地中央部にあるため、屋内運動場・駐車場とグラウンドとの連携が十分でない。	◎	グラウンド・広場・屋内運動場・駐車場がまとまり連携が可能。	○	駐車場から中学校校舎までのアプローチが長い。
セキュリティ・視認性	◎	校舎棟からグラウンドや広場、駐車場へ視線が抜け、視認性が高い。	△	校舎棟が敷地中央部にあるため、グラウンド側と駐車場側のどちらかに視認性が偏る。	○	校舎棟からグラウンドや広場、駐車場へ視線が抜け、視認性が高いが、正門側への視認性は劣る。	◎	校舎棟からグラウンドや広場、駐車場へ視線が抜け、視認性が高い。
近隣への配慮	○	B案に比べ県立九十九里高校へ日影の影響がある。	◎	周辺への日影の影響は少ない。	△	東側にある住宅への圧迫感や北側への日影の影響がある。	○	B案に比べ県立九十九里高校へ日影の影響がある。
将来の屋内運動場建替え	○	校舎南側へ建替え。建替えに先立ちテニスコートを移転する必要がある。	△	校舎南側へ建替え。校舎棟へ日影の影響を与える。	○	校舎南側へ建替え。校舎棟からの動線はコンパクトだが、グラウンドが整形でなくなるため使い勝手が悪い。	○	校舎南側へ建替え。建替えに先立ちテニスコートを移転する必要がある。
工事中の学校への影響	◎	工事エリアを明確に区画でき、生徒動線への影響が少ない。	△	校舎建設中の既存校舎とグラウンドとの動線に影響がある。	△	先行して既存駐輪場の解体が必要。既存校舎の普通教室群と近いため、工事中の騒音等配慮が必要。	◎	工事エリアを明確に区画でき、生徒動線への影響が少ない。
建設コスト	◎	工事エリアを明確に区画でき、工期短縮が図れる。また、誘導員や仮設費などの間接的な費用を抑えられる。	△	生徒動線と工事エリアが重なり、安全管理のための仮設設備や、工事時間帯の制限などがでる。工期が長くなり仮設費が高くなる。	△	新校舎が既存校舎に近いので、騒音や振動対策(防音パネルや特殊工法など)が必要となり、建設費が増加する。	△	校舎1棟配置と比べて掘削面積や壁、屋根の外皮部分が増えるため、建材や断熱材などのコストが増加する。
評価	◎	広場を中心に各施設を配置することで、動線が明確になり機能的な配置となっている。また、校舎棟を海向き配置とすることで、自然換気にも配慮した案である。	○	校舎棟を敷地中央部に設けたことにより、校舎棟から各施設までの動線が短くなるが、駐車場・屋内運動場とグラウンドとの連携が取れず管理がしづらい。	△	歩車分離が行えないため、安全面への配慮が必要。北東側の住宅への影響が懸念される。屋内運動場までの距離が長くなり使いづらい。	△	校舎1棟配置（A案）と比べ、建設コストが高くなる。中学校校舎から屋内運動場までの距離が長くなり、使いづらい。1棟配置に比べ、将来の小中一貫教育の運用に制限がでる。